

武蔵野を讃う（土屋忠司）

武相の 連山 紫紅に 映え

富嶽 遙かに 望めば 雲 残照

噫 武蔵野 月 雪 花

古今の 墨客 感懐を 誌す

武相連山映紫紅 富嶽望遙雲殘照
噫武蔵野月雪花 古今墨客誌感懐

解説 武蔵野を讃えた詩。

語釈 ※武蔵野 武蔵野の範囲は荒川以南・多摩川以北で、東京都心までの間に広がる武蔵野台地である。かつては雑木林を初めとする素朴な自然があつた。国木田独歩の「武蔵野」は有名。※武相連山 武蔵と相模に連なる連山。※残照 夕映え。※墨客 文筆や書画の巧みな人。

通釈 武蔵・相模に連なる山々は、昇る朝日に映えて美しい。遠く富士山を望めば、夕日に映えて雲が浮かんでいる。武蔵野は四季折々に良く、朝夕の眺望はまことに美しい。昔から多くの墨客風流人の胸を打ち、多くの感慨が記されている。